

[4番 青山江湖さん登壇]

○4番(青山江湖さん) 皆さんは「LRT」という言葉を御存じですか。簡単に言うと路面電車のことで、Light Rail Transitの略称です。床がとても低くて、誰でも乗り降りしやすく、人と環境に優しい次世代型の公共交通として見直されています。私は昨年、中三の修学旅行で京都へ行きました。班のみんなで路面電車に乗って龍安寺まで行きました。1両だけの小さな車両がまちの中を車と並走している姿にとっても感動しました。歴史と公共交通がうまく融合していて、情緒にあふれていました。島田市にも路面電車が走ったら、どんな素敵なまちになるだろうとわくわくしました。

私は今、初倉に住んでいます。島田駅からも六合駅からも遠いので、日頃の交通の不便さを感じてきました。友達と出かけるときは、家の人に車で送ってもらうか、バスを利用しています。しかし、バスは便数が少なく乗るときに何となく緊張したり不安を感じたりして、気軽さに欠けます。地元の友達の多くは、高校や駅まで自転車で通っています。雨の日や風の強い日は大井川の橋を渡るのがすごく大変で不便だとか、親の車に頼っているとか言っています。また、大きな買い物袋を重たそうに歩いているお年寄りを見かけると、とても心が痛みます。いつまでも車に頼らないと生活できないようなまちでは、人はどんどん減っていく一方だと思います。思い切った改革が必要だと私は思います。もしも島田市にLRTが導入されれば、交通弱者の強い味方となり、子供からお年寄りまで安全で自由に移動ができるようになります。床が地面と同じ高さなので車椅子やベビーカーの人もスムーズに乗り降りができます。初倉、金谷、川根の各地域から中心市街地に向かってレールを敷けば、人の動きが活発になり、シャッター街となっているまちの中心部も売上がふえて、島田市全体が元気になると思います。

以上の理由で、私はLRTの導入を提案し、以下の質問をします。

(1)島田市の中でバス交通が特に不便だと思われる地域はどこですか。また、外出する手段のない人々や交通弱者のための対策は何かされていますか。

(2)若者の流出や人口減少の対策として、バス交通の面で島田市はどのような取り組みがされていますか。

以上で質問を終わります。

[4番 青山江湖さん発言席へ移動]

○議長(仲田裕子議員) 染谷市長。

[市長 染谷絹代登壇]

○市長(染谷絹代) では、青山さんの1の(1)の御質問についてお答えをいたします。市の中でバス路線が通っていない地区としては、六合地区の阿知ヶ谷、岸町、初倉地区の大柳、中河、金谷地区の横岡など、まだほかにもたくさんありますが、それらの地区は少なからず生活に支障があることは承知をいたしております。外出することが困難なこれらの地区の方たちへの対策の一つとして、川根地域では65歳以上で体が不自由な方を対象に通院、日用品の購入及び施設への通所などの日常生活に不便が生じないように軽四輪自動車を使った移動支援サービスを行っています。今後は、地域の皆様が相互に助け合う移動サービスの仕組みをつくっていく必要があります。例えば市からNPOや自治会などに車をお貸しし、ガソリン代や修繕費などの維持費を行政が負担するということなどの支援を検討していきたいと考えております。

次に、1の(2)の御質問についてお答えをいたします。若者の流出や人口減少についてはいろいろな原因がありますが、交通網の整備が不十分であることもその一つであると考えています。現在、バス交通の面からは多くの人に利用してもらえるようにダイヤの改正や経路の変更などを行っています。さらに今後の対策としては、観光客の誘

致、雇用促進のための企業誘致、道路などのインフラ整備及び移住・定住促進事業などを行い、それにあわせてバス路線を整備し、魅力ある暮らしやすいまちにすることで移住・定住者を増加させ、人口減少に歯どめをかけたいと考えております。

以上、御答弁を申し上げます。

再質問につきましては担当部長から答弁させる場合がありますので、よろしく願いをいたします。

○議長（仲田裕子議員） 青山江湖さん。

○4番（青山江湖さん） 再度、質問いたします。将来的に見てLRTの導入は可能ですか。ずばり実現度は何%ですか。市長からの答弁をお願いします。

○議長（仲田裕子議員） 染谷市長。

○市長（染谷絹代） 本当に正攻法でずばっと何%ですかと聞かれて、すぐに何%とお答えできればいいのですが、なかなかそうもいかない事情がございます。お話をさせていただきたいと思いません。

次世代型の路面電車と言われるLRTですけれども、御存じのとおり運行の定時性、あるいは快適性、あるいは集客力の高さ、そして環境への配慮など多くの面で優れた特徴を有する交通システムであるというふうに私も思っておりますし、またそれが市のシンボルとなる公共交通機関となるということでも注目されていることはよく知っております。わかっております。県内でも静岡市というところが、大正11年から昭和37年まで路面電車が走っていました。そのあと、自動車の普及に伴って道路渋滞の原因の一つとしてこの路面電車があるというようなことを言われまして、次々と廃止されて、今では京都をはじめとして全国で19の地域、19の事業者が、全部合わせても238キロメートルという距離で路面電車を運行しております。

LRTの導入については、市とかあるいは民間企業、第三セクターなどの事業主体の確立、それ

から車両の購入、道路の拡張、そして歩道、車道、軌道、こういった道路の再区分、それから交通規制の変更、それから多額な整備費用、導入後の維持管理費など大変多くの解決しなければならない課題があると思っております。こうした課題の解決が図れば、将来的には導入の可能性はゼロではない。それは確かであります。

こうしたことから、現在は市民ニーズの変化に十分対応できるようなことを考えながら、バスや電車などの連携、バスの着く時間と電車が発車する時間が連携するように、電車が着いたら、それに合わせてバスも発車するように、こういった連携を強化するなど、既存の資源をまず十分に生かすということで公共交通の利便性を図るところから今始めているところであります。

○議長（仲田裕子議員） 青山江湖さん。

○4番（青山江湖さん） 再度、質問いたします。

私は今、初倉地区に住んでいるので、初倉地区から島田駅または六合駅まで路面電車が通ればいいと思います。そうすれば、観光としても大井川にかかる橋を渡る路面電車として全国的に注目されると思います。いかがでしょうか。市長からの答弁をお願いします。

○議長（仲田裕子議員） 染谷市長。

○市長（染谷絹代） お話を聞いていて思いました。大井川を渡る路面電車を島田駅や空港までつなげることができる、そういった提案は青山江湖さんらしい本当に自由な発想、若い方の発想、本当に私はすばらしいと思います。観光としても大井川鐵道のトーマスと同じように全国的にも注目されるだろうというふうに思います。

しかし、私は実際、今回、LRTのお話をいただいて、自分でちょっと勉強してみました。実は宇都宮市というところが今年このLRTを導入しようとしているのです。そこの様子等も詳しく資料を取り寄せて勉強してみたのですが、宇都宮市では全体区間が18キロメートルだそうで

す。その18キロメートルに400億円の事業費がかかり、年間13億円の維持管理費がかかるそうです。1キロ単位で計算したら、1キロ延ばすのに25億円かかるのです。

そうした中、例えば今、初倉で運行している湯日線、これは全長で12キロメートルでございます。1キロ25億円だと、それだけで300億円かかります。そしてまた新しい橋をつくらないと電車を通す軌道をつくれませんから、橋をつくるお金もかかってまいります。そうすると大きな費用がかかるというふうに思っているのです。先ほどもお話をいたしました、費用面を含めてさまざまな課題が解決されれば、実現の可能性はゼロではないとお話をしました。今後は、全国の導入の事例等を検証しながら、この島田市に合った交通システムというのを考えていかなければなりません。

それから、市長の仕事というのは、私もLRTがいいと思って、どうしてもこれをやりたいと思えば、できないわけではありません。しかし、そのためにほかのところの予算をたくさん削らなければできなくなってしまいます。例えば島田市は今、市民会館を取り壊していますが、いずれ、この市役所も古くなってきていますから、そういった公共建築物を新しくしなければならぬときも来ます。それから、学校が昭和40年代から50年代にかけて多く建てられておりますので、25ある小・中学校がこれから10年先、次々に建て直さなければならぬという時代にもなってまいります。

それから、島田市に仕事、雇用を生み、若い人たちに来ていただき、そして島田市を元気にするために、稼ぐ仕組みという意味で、産業振興というようなことでも大きな投資をしたいというふうに思っています。

市長の仕事とはいろいろなことを考えながら、このまちをよりよく発展させるため、今何に力を入れていけばいいのかということを実は取捨選択といいますが、集中的にどこに投資をしたらいい

のかということを考えていくことも市長の仕事であります。全体のバランスの中でこのLRTを今導入することはなかなかできないのが現実であります。

しかし、提案いただいたことは、まちを大きく変えていく自由な発想、とてもすばらしいと思います。そうした発想がやはりこれからの島田市をつくっていくわけですから、ありがたかったし、また私自身も今回御質問いただいたことでLRTを勉強するきっかけをいただきました。そういう意味でも、心から感謝を申し上げる次第であります。ぜひこれからも若い人の感性、そして気づき、その企画力でどしどし、こんなふうにしたらもっとよくなるという御提案をいただけたらありがたいというふうに思っております。

担当部長からも一言感想といえますか、話をさせます。ちょっと時間がありますので、よろしく願いいたします。

○議長（仲田裕子議員） 杉村地域生活部長。

○地域生活部長兼支所長（杉村嘉弘） 青山さんからこのアイデアをいただいたときに、私も市長と同様にLRTにつきまわっている全国的例を参考にさせていただきました。以前、静岡市のほうでも昭和37年まで走っていたという話がありましたけれども、実は私は昭和37年といえますと2歳か3歳ぐらいですけれども、何となく走っているというイメージは覚えています。近くでは豊橋なんかよく路面電車が走っておりますし、青山さんが見た広島とか長崎等でも見て、非常に情緒があつていいとは思っていました。この島田市の中にそういった路面電車が走るというのは非常に素晴らしい夢だと思います。可能性は0%ではありませんので、ぜひそれが10%、20%と広がっていくような施策ができればいいかと思います。

こういった夢は大人になってもずっと持ち続けていただきたいと思います。私たちのようになりますともう現実しか見えなくなってくるので、

ぜひいろいろな夢を、たくさんの方々の夢を持って、いろいろな意見を市のほうにも出していただきたいと思います。ありがとうございました。

○議長（仲田裕子議員） 高木副市長。

○副市長（高木 繁） 御指名はありませんけれども、一言言わせてください。

今、昭和37年まで静岡市で路面電車がというお話でした。実は旧清水市では路面電車が走っておりました。私が生まれて、興津に住んでいたのですけれども、袖師から清水の港橋のところまではチンチン電車が走っておりまして、御存じないかとも思いますけれども、七夕豪雨というのがございまして、そのときに清水のほうの路面電車が廃止された。今は全体で静岡市と言うものですからそういう表現になっていますけれども、正確には旧清水市にはもうちょっと先に路面電車が走っていたというのが事実でございます。

私も小学校くらいですか、興津で、袖師からだったものですから、小さいころに祖父に、袖師まで歩いて行って、まちに出かけたという経験があります。非常に懐かしく思いますし、やはりあったらいいというのは、私自身は体験として持っております。しかし、残念ながらお金の関係とかいろいろあってなかなか前向きな答弁にはなりませんでしたが、市長もおっしゃったようにいろいろな可能性を考えて、提案して、できることはできるし、できないことはできない。ただ、やる方法をみんなで考えるということは非常に大切なことだと思います。それは、市の行政だけではなくて、青山さんのこれからの生き方も含めて関係していくと思いますので、ぜひいろいろな意見を言っていただきたいし、言える環境をつくっていくのが私どもの仕事かというふうに思っております。

以上です。

○議長（仲田裕子議員） 青山江湖さん。

○4番（青山江湖さん） 私は今のところ高校卒業

後は自宅から通える静岡県内の大学へ進学したいと考えています。しかし、やはり交通が不便だし、どうしても島田市に残りたいという明確な理由もないので、文化と交通網が発達している都会を選んでしまうかもしれません。島田市の自慢である歴史遺産と新たなシンボルが融合すれば、人を引きつける魅力的なまちになり、若者の流出や人口減少に歯どめをかけられると思います。

これで私の提案、質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（仲田裕子議員） 染谷市長。

○市長（染谷絹代） ぜひ大学進学しても、どうしても島田市に住みたいと思っていただけるように私も頑張りますし、そうであってほしいと思います。青山さんのような方たちがこの島田市に住んでいてくださること、それが島田市を大きく変えていく力になると思います。よろしくお願いたします。